2020年9月17日
ファスニングジャーナル(5面)に掲載されました

売上高159億円（前年同期比4・6%減）
日東精工 2020年12月期第2四半期累計

日東精工㈱（本社＝京都府綾部市。材木正己社長）の2020年12月期第2四半期（2020年1月1日～6月30日）累計決算報告によると、売上高が一五八億八，七〇〇万円（前年同期比4・6%減）であった。営業利益は五億六，九〇〇万円（同57・1%減）、経常利益が六億二，八〇〇万円（同55・2%減）で、親会社株主に帰属する四半期純利益は三億五，一〇〇万円（同60・8%減）。コロナ禍等により減収減益となったものの、外出制限の影響で家庭用ゲーム機向け精密ねじが好調を示した。

第2四半期累計のセグメント（事業）別の経営成績および主な活動内容は次の通り。

【ファスナー事業部】

売上高一一二億四，〇〇〇万円（前年同期比5・9%減）、営業利益は一億四，七〇〇万円（同48・5%減）。グループ会社拡充などが売上確保に寄与するも、コロナ禍による需要減少ならびに生産活動の一時停止が影響し減少。一方、外出制限の影響からゲーム機向けの精密ねじ生産が大幅増。今後は、異種金属接合技術「AKROSE」に熱処理技術を応用した原子レベルでの金属接合を実現する「AKROSE HYBRID」を10月に発売予定。

【産機事業部】

売上高三一億一，六〇〇万円（前年同期比14・7%減）、営業利益は五億五，八〇〇万円（同42・7%減）。自動車関連を中心に各分野での設備投資が見合わせとなり売上減少。「NXドライバ」にEthernet／IPの搭載、遠隔メンテナンス対応の「ねじ締めコントローラ」を開発。今後は、ねじ締めドライバの無人製造や協働ロボット専用ねじ締めツールの販売をおこなう。

【制御システム事業部】

売上高一五億三，〇〇〇万円（同44・5%増）、営業損失は一億三，五〇〇万円（前年同期は営業利益六，七〇〇万円）。「日東精工アナリテック㈱」の設立で、化学・薬品分野において売上は大幅増加。しかし、企業取得に関わる費用の計上や好採算製品である地盤調査機「ジオカルテ」などの低迷により収益面では大幅に減益。今後は、可燃性液体の定量測定器「防爆バッチカウンタ」と流量管理機器の改良による付加価値向上も図るものとしている。

そのほか、海外拠点別業績では、国や州の規制に伴う工場稼働停止や、自粛・在宅勤務指令の影響を受け、大多数の拠点が売上減少。コロナ禍や米中貿易摩擦の影響により自動車分野が大幅減少したが、ゲーム機向け精密ねじの受注増加を受けた台湾と中国は売り上げの減少量を抑制。

なお、事業拡大戦略として▽制御システム事業部と日東精工アナリテック㈱との製造販売でのシナジーを図る▽販売子会社「東莞和光汽車零配件有限公司」設立などをおこなった。

同社グループでは、中期経営計画「NITTO SEIKO Mission "G"（2019年～2022年）」のもと、メディカル新規事業部を設立して医療分野への本格参入をおこなっており、医療用照明器「フリーレッド」の開発と販売をスタートさせている。そのほか、グループの日東公進㈱製の部品供給機の拡販、国内外向上の生産能力拡大、「統合レポート」発行、積極的な設備投資などにも取組んでおり、引き続き積極展開を図る。

©㈱ファスニングジャーナル　無断複製・転載を禁ずる